

令和5年度WAMオンライン学習会

# 「活動の経験」を次の計画づくりや 事業展開に活かすには？」

認定NPO法人 はっぴいmama応援団

代表理事 松山 由美子



# 1. 「認定NPO法人 はっぴいmama応援団」とは

2009年 「はっぴいmamaはうす」を開設（新潟市西区）

任意団体「はっぴいmama応援団」結成

「ママの笑顔がいちばん！」という思いを持った保健師・助産師・看護師

・保育士・アロマセラピスト・ヨガインストラクター・心理学講座講師・先輩ママなどが  
集まり任意団体を結成。

ママと赤ちゃんの居場所・各種講座などを開始。

2012年 WAM助成採択

2013年4月 産後デイケア・訪問ケア事業を開始（WAM助成）

2015年6月 任意団体→NPO法人となる

2009年11月

「はっぴい mama はうす」開設（外観）



2009年11月

「はっぴい mama はうす」開設（室内）



# 1. 「認定NPO法人 はっぴいmama応援団」とは

2009年 「はっぴいmamaはうす」を開設（新潟市西区）

任意団体「はっぴいmama応援団」結成

「ママの笑顔がいちばん！」という思いを持った保健師・助産師・看護師

・保育士・アロマセラピスト・ヨガインストラクター・心理学講座講師・先輩ママなどが集まり任意団体を結成。

ママと赤ちゃんの居場所・各種講座などを開始。

2012年 WAM助成採択



小児科医との出会い

2013年4月 産後デイケア・訪問ケア事業を開始（WAM助成）

2015年6月 任意団体→NPO法人となる

2017年5月 「親とよいこのサポートステーションはっぴいmamaはうす」開設・移転

2022年7月 「訪問看護ステーションはっぴいmamaはうす」開設



2016年5月

「親とよいこのサポートステーションはっぴい mama はうす」開設・移転。



## 親とよいこのサポートステーションはっぴいmamaはうす

### 【多目的ホール】

子育てサロン  
助産師・保健師による  
妊婦・育児相談会  
メンタルケア講座など  
各種講座

ワンコインランチ  
(テイクアウト)



### 【個室】

産前産後デイケア  
個別相談  
心理カウンセリング



### 【浴室】

産前産後デイケア  
母親の入浴  
児の沐浴介助



## 親とよいこのサポートステーションはっぴいmamaはうす

【送迎車】 産後ケア、個別相談利用者の送迎



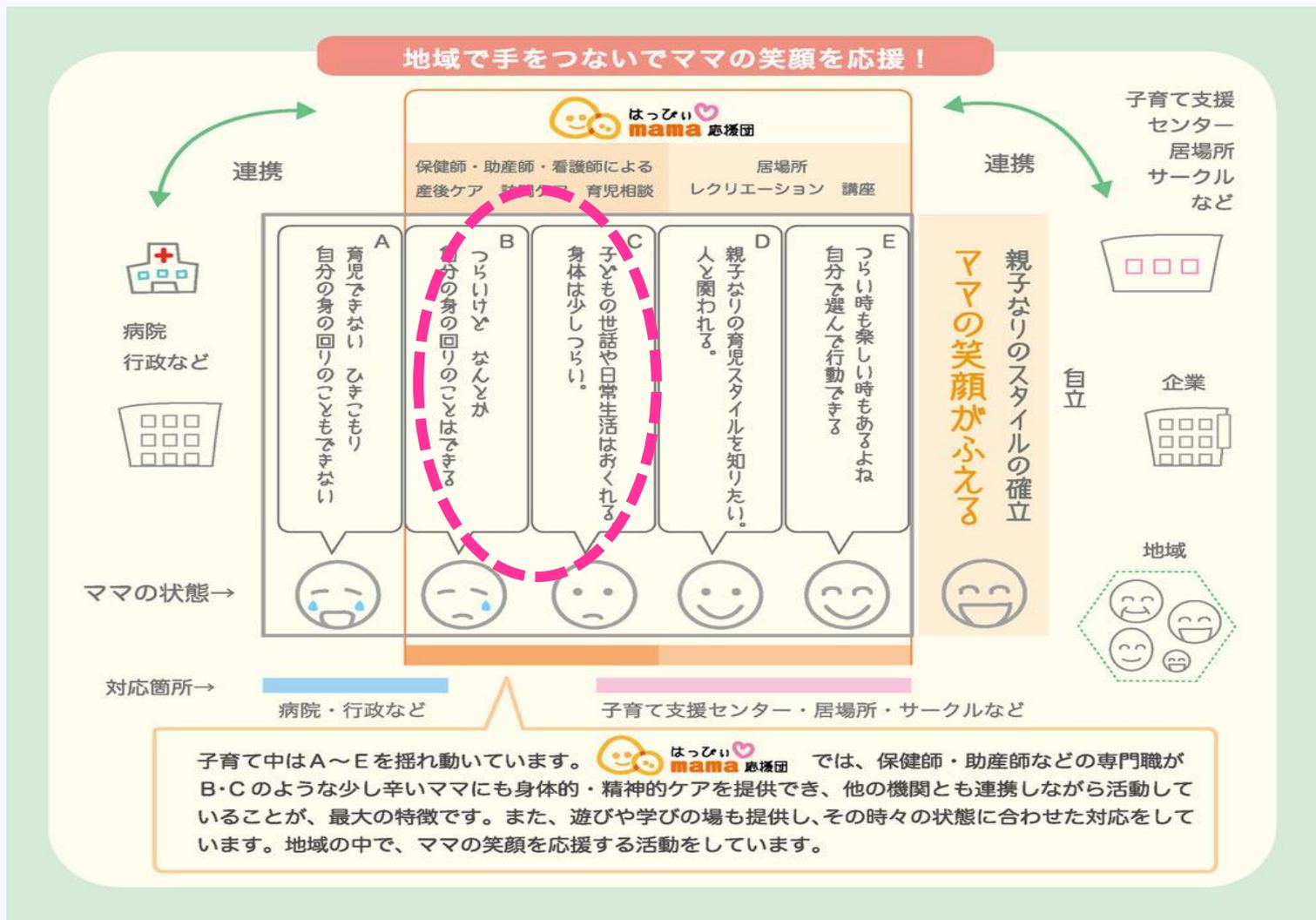
mamaはうす号

クラウドファンディング  
187名 163万円

地域の方々のご支援で  
生まれました

# 地域での私たちの役割

地域の支援の隙間で困っているママたちを支援したい



## WAM助成採択実績

年度	事業名	採択金額 (千円)
平成24 (2012)	専門職による子育て支援事業	1,351
平成25 (2013)	専門職による産後ケア事業	3,174
平成26 (2014)	専門職による産後ケア事業	2,297
	<b>2年間不採択</b>	
平成29 (2017)	妊娠期からの訪問ケア・デイケア事業	3,630
平成30 (2018)	専門職による産前産後デイケア訪問ケア事業	6,055
平成31 (2019)	専門職が行政・医療・民間企業と連携し、 妊娠期から切れ目なく包括的に支援する事業	6,660
令和2 (2020)	医師・助産師・カウンセラー等 専門家による妊娠期からの虐待防止事業	6,999

## 2.計画を立てる際に意識していること

活動の**原点**を忘れない

「**ママの笑顔がいちばん!**」

「**妊娠期からの切れ目ない支援**」

→計画の**軸**になる。**一貫性**のある計画の**指針**

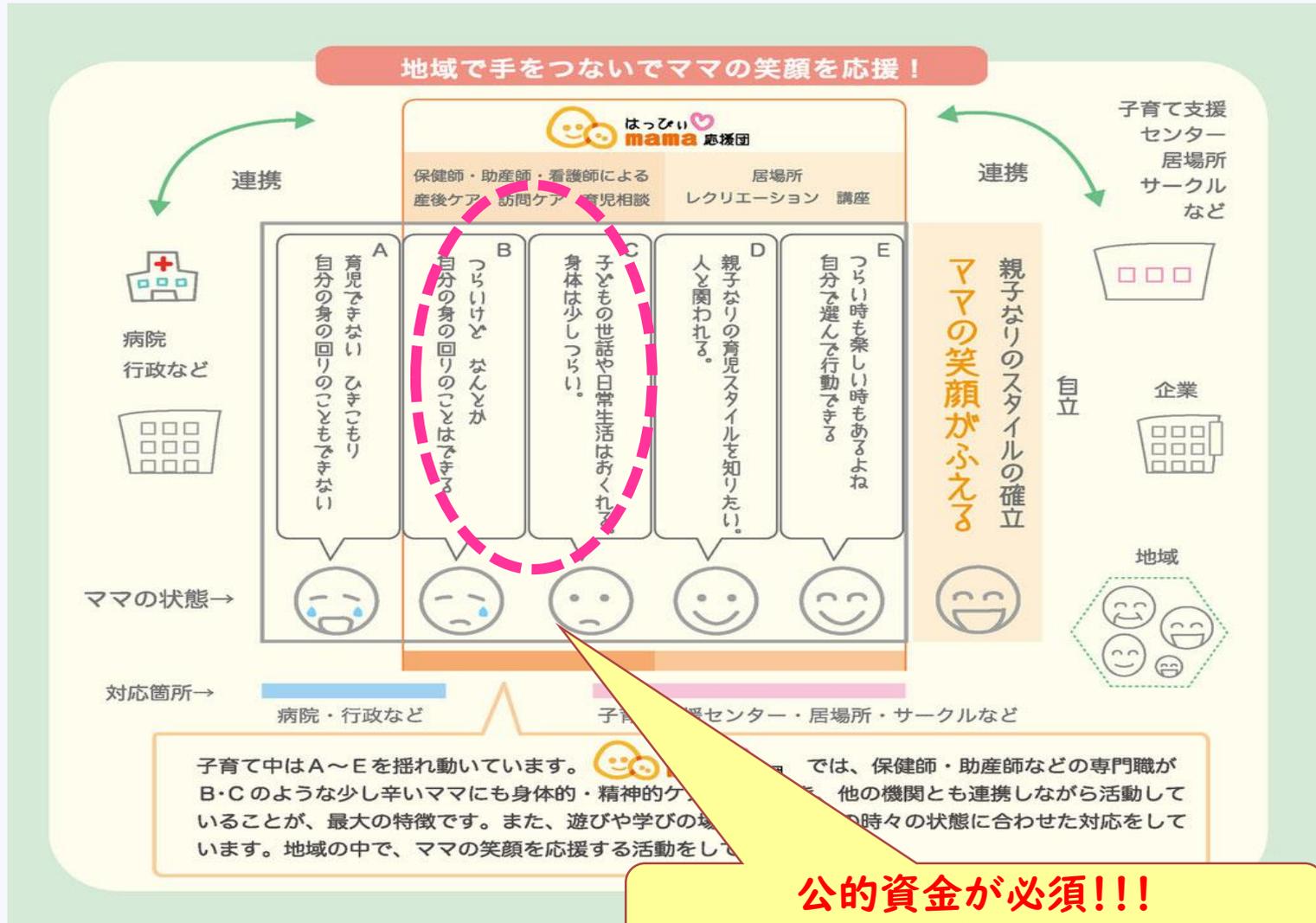
### 計画を立てる際のポイント

- ・対象者のニーズに合っていること
- ・法人でできること
- ・法人としてやりたいこと
- ・専門的視点から地域に必要なこと
- ・地域、関係機関に受け入れやすいこと

# 事業化・予算化までの道のり

	当法人	行政の動き
2013年	産後デイケア・訪問ケア事業開始 (WAM助成事業)	十数年目から産後ケア事業(宿泊ケア)を実践
2014年	(WAM助成事業)	(国)妊娠・出産包括支援モデル事業開始
2015年	—	
2016年	—	(国)子ども・子育て支援推進調査研究事業 「産前・産後支援のあり方に関する調査研究」
2017年	(WAM助成事業)	
2018年	(WAM助成事業)	(市)少子化調査特別委員会に参考人招致
2019年	(WAM助成事業)	(国)母子保健法の一部を改正する法律 (産後ケア事業の努力義務化)
2019年9月		(市)市議会議員で構成される 「市民厚生常任委員会」による施設視察
2020年	(WAM助成事業)	(市)産後ケア事業の拡充(デイケア・訪問ケアへの拡充)
2022年	新潟市産後デイケア・ 訪問ケア事業受託 訪問看護ステーション	
2023年		

# (再掲) 地域での私たちの役割



**公的資金が必須!!!  
目指せ!事業化・予算化!**

### 3. 私たちが大切にしてきたこと (Will)

対象者のニーズ「ママたちが求めているものは何か」

私たちが求める支援「自分たちの子育てで欲しかった支援は何か」

持続可能な活動であるために。。。

「ママの笑顔がいちばん！」

「私たちが何をしたいのか」 スタッフの笑顔を大切に。

※私たちの気持ちに無理があっては続かない。

**まず実践！！**

迷ったら・・・誠実に。「私たちらしさ」に立ち戻る

## 4.実際に計画を運用してみて感じたこと、苦勞、取り組み(1)

### 助成金を活用し、実績を積んだ

- ・ お金に対する**抵抗感**。
- ・ 実施中の事業が、助成金申請の結果次第で中断となる不安。
- ・ **新規事業（産後ケア事業）** **立上げ**の壁。

採択後から準備を始め、利用者が来るまで半年かかった。

次年度にも申請したが、採択される保証はなかった。

- ・ **事業を1年間以上実施**することで、見えてくるニーズがある。
- ・ 単年度申請では、継続の保証はない。
- ・ 自主運営に向けて基盤を作るために**1年は短い**。

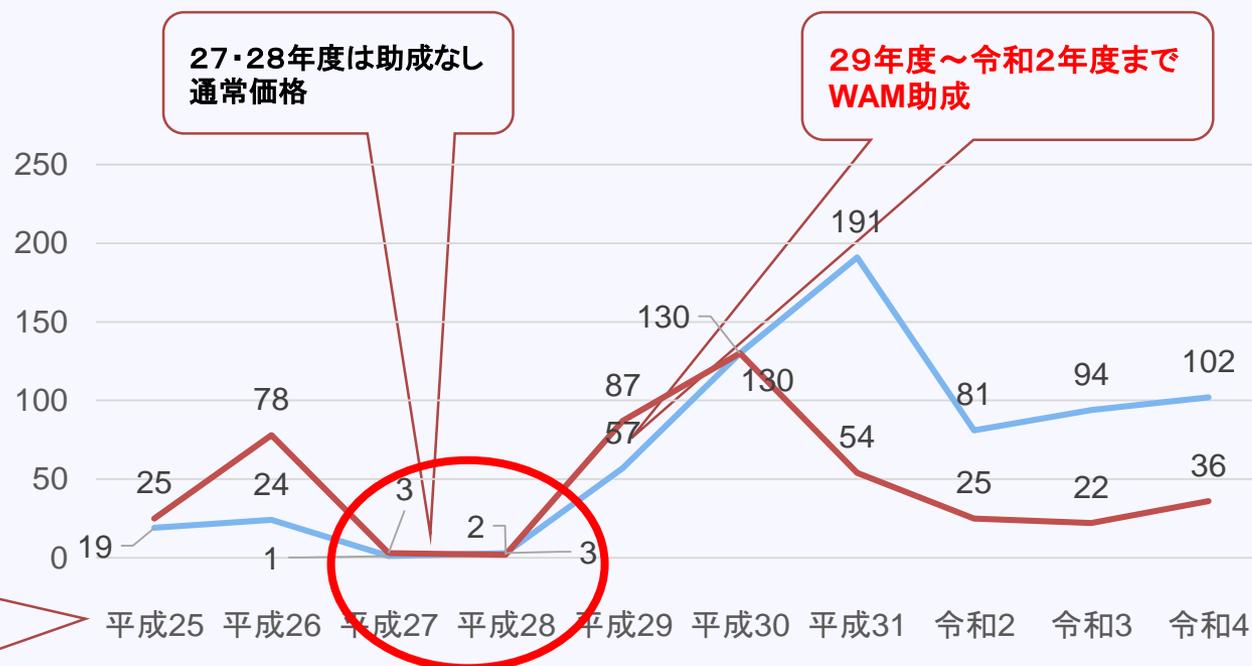
#### 4.実際に計画を運用してみて感じたこと、苦勞、取り組み(2)

### 制度化までの長い道のり

- ・助成金が採択されない時期は利用者激減。
- ・2年間の不採択の時期、時給換算**300円程度**で事業を継続。



## 「デイケア・訪問ケア」事業年次推移実績



25年度より  
デイケア・訪問ケアを開始。  
25年度・26年度はWAM  
助成

27・28年度は助成なし  
通常価格

29年度～令和2年度まで  
WAM助成

### 【自己負担額】

- ・デイケア： 助成あり **2000円**      助成なし **6500～8000円**
- ・訪問ケア： 助成あり **1500円**      助成なし **2500～3500円**

## 4.実際に計画を運用してみて感じたこと、苦勞、取り組み(2)

### 制度化までの長い道のり

- ・ 助成金が採択されない時期は利用者激減。
- ・ 2年間の不採択の時期、時給換算300円程度で事業を継続。
- ・ 不採択の次年度も再採択を目指すことの無謀さ。
- ・ 同じ志を持った仲間や家族の存在。
- ・ 制度化されるべきものという自信と信念。

#### 4.実際に計画を運用してみて感じたこと、苦勞、取り組み(3)

### 制度化されても尚続く、自立困難な道のり

- ・制度化されても補助金少なく赤字！手挙げができない。
- ・公的資金と助成金は併用できない（WAM助成）という壁。
- ・複数年の採択を繰り返し、助成金獲得は困難という現実。

「誠実であれ」と、奮起

- ・制度化だけでなく、使える制度にするための働きかけ。
- ・議員、行政の母子保健関係の人への働きかけ。

※報告書の関係機関への継続的配布



# 【参考】2020年度

## 「事業報告書」（冊子） A4 20ページ

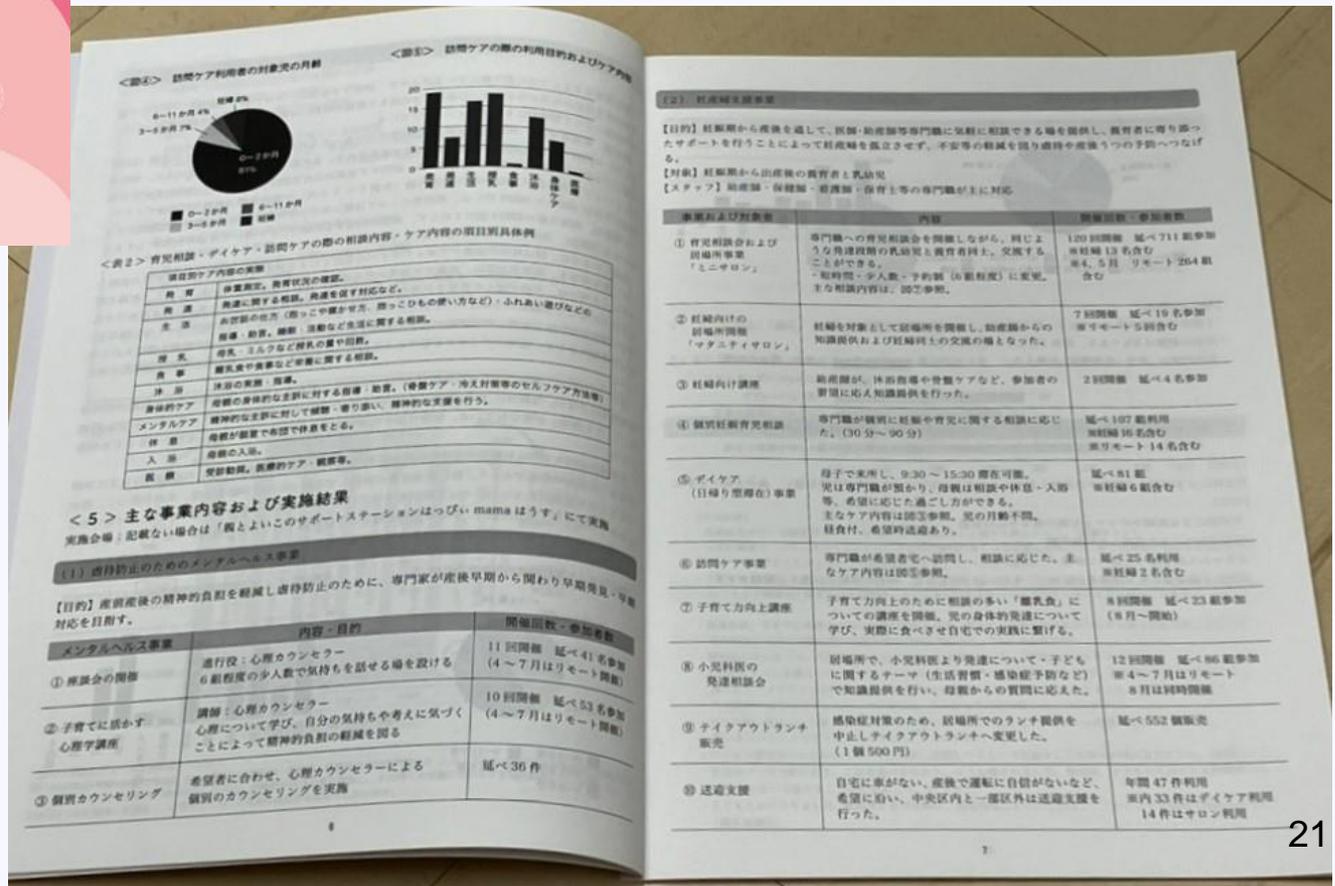
報告書（冊子）も毎年作成し、議員さんや、市の母子保健関係者、関係機関に広く手渡している。

令和2年度  
認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団 産後支援課有吉直

独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉司有吉直 産後支援課有吉直

医師・助産師・カウンセラー等  
専門家による妊娠期からの虐待防止事業  
実施報告

認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団  
令和3年3月



## 5.事業計画を変更した場面やその時の対応について(1)

令和2年度、**コロナ禍**になり計画変更が必要となる。

- ・ 具体的支援の計画変更：対面→リモートでの支援  
感染症対策をした上でできること
- ・ 新たな予算編成：リモートのための必要物品、  
準備のために生じる活動への謝金等

※ その都度WAM担当者へ電話し細かく質問

WAM：**支援の目的**に沿った**必要な活動**を支援する姿勢

## 6.活動の経験を次年度の計画づくりや事業展開に活かさせたこと

実践で得た経験は、実績として他機関との連携などに活かされた。

次年度の計画で、どのように動けば利用希望者のニーズを満たせるのか、具体的に考えられようになっていった。

→ **実情を具体的に**に記載できるようになった

実践することによって、助成金に計上していなかった「みえない経費」があることを認識できた。それまでは持ち出しで行っていた広報活動などに謝金等を計上し、スタッフのモチベーションにも繋がったと思われる。

→ 事業実施に必要な**経費を想定**できるようになった

## 7.活動の経験を次年度の計画づくりに活かす方法(1)

### ①活動の経験から申請に至るプロセス

《活動中でのアンケートや利用者の声を情報共有しニーズを検討する》



《団体メンバーみんなの意見を会議などで受け取る》



《書きたいことを**自分の言葉で** 文字数構わず、全部書いてみる》



《流れやボリュームを調整する》



《提出前には、再度意見をもらい再度修正してから提出》

**専門職以外の目で**校正し、分かりやすい表現に直す

## 7.活動の経験を次年度の計画づくりに活かす方法(2)

### ② 理事会・ミーティング等会議の方法、雰囲気

- ・月に1回、**理事会**と**スタッフミーティング**の定例会議（2時間～3時間）
- ・全員参加ではなく任意参加。（コロナ禍からハイブリッド）
- ・**理事会**：法人全体の**大きな方向性**を決定（対外的な動き、行政の動き等の情報共有を重要視）
- ・**スタッフミーティング**：日々の活動で**感じていること**を表出し、改善点など出し合う。改善に向けてのアイデア出し、誰が何をどのように行うのか**行動レベル**で決める。
- ・**個人の振り返りの時間**（30分程度）  
（紙に書いてグループでシェア）  
➡個人や法人の方向性や課題の共有



## 7.活動の経験を次年度の計画づくりに活かす方法(3)

### ③申請にあたって大切にしていること

**「みんなでつくったものだから、みんなに知らせる」**

・次年度の活動について**理事会**で助成金の申請をするか否か、どの時期にどの助成金どの分野になど検討する。

・理事会の話し合いを元に、**スタッフミーティング**でどのような形で申請するかアイデアを出し合う。

→ **代表が計画**を立て**経理が予算立て**

→ 再度スタッフに知らせる

→ 意見を出して修正

→ **申請**

各スタッフの**得意なこと**や  
**専門性**を活かして、  
**役割分担**をする。

「みんなで作った計画だから、  
みんなで実践する」



各スタッフの立場や気持ち、  
考え方を大切に、励まし合い  
支え合って活動する。